小栗康平 監督作品 眠る男

安聖基　クリスティン・ハキム　役所広司

人間って、大きいんかい、小さいんかい……

世界の名画を見る会Vol.6

●対談●
「眠る男」を製作して考えること
高野悦子：小栗康平

●上映作品●
「眠る男」（日本映画）

'98 1月18日(日)

開場13:00　開演14:00

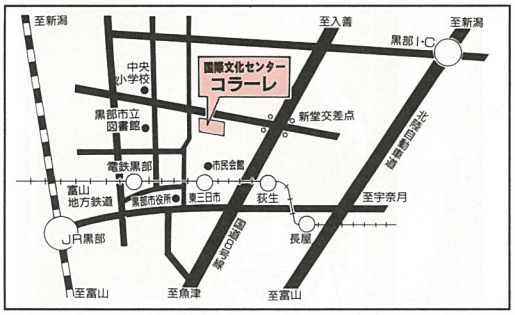
黒部市国際文化センターコラーレ（大ホール）　入場料／1,200円（全席自由）当日1,500円

プレイガイド／コラーレ・黒部メルシー・ロイヤルバリー黒部・魚津サンプラザ・入善コスモ21・朝日アスカ・インフォマート（市民プラザ、CiC）・北日本新聞社・富山県民会館

お問い合わせ／財団法人黒部市国際文化センター
TEL(0765)57-1201　FAX(0765)57-1207

製作「眠る男」製作委員会
企画　今野昭雄　小寺将子
脚本　八木福子　小栗昭雄
音楽　瀬川昌世　細川俊夫
指揮　小日向哲也　高関健
演奏　蟹江敬三　群馬交響楽団
撮影　渡辺哲　丸池嘉良
美術　平岩徳満　横尾忠則
録音　真垂明美　山井宗一
照明　立川寛　小川英明
編集　真利子　鈴賀信夫
スクリプター　藤枝子　慶子
アート・デュリンスキー
映像効果　左敏　竹内公一
美術補　高時　安田彰一
装飾　小林　綱島徹
スチール　中島ひろ子　佐々木伯
監督補　小江　武田秀雄
助監督　風見章子　中野勘
製作統括　浜村純　日本画　平松礼二
プロデューサー　錦織世仙　増澤博空
製作　田村高廣　観世暁夫会
配給　(株)SPACE　藤倉

5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。
一時保育を希望される方は事前にご連絡ください。



主催／財団法人黒部市国際文化センター　共催／北日本放送　後援／黒部市・黒部市教育委員会

小栗康平 監督作品 1996年作品

眠る男

製作「眠る男」製作委員会　製作配給㈱SPACE

一人の眠り続ける男の周辺で、日常の営みがなされている。山があり、森があり、川があり、季節が静かにめぐる。

ここでは、生と死、人と自然が、一つのものとして見つめられる。すべての「いのち」が、限りなくやさしい。

「眠る男」は、世界からその動向を注目されている小栗康平監督の最新作である。また、群馬県という自治体が劇映画を製作する初の試みとして、各方面から様々な関心をあつめてきた。

配役は、「眠る男」に韓国映画界を代表する安聖基（アン・ソンギ）、「南の女」ティアに、インドネシアのトップ女優クリスティン・ハキム、「眠る男」の同級生上村（かみむら）に役所広司を起用し、アジアの国境を越えた取り組みとしても、期待されている。

監督の小栗康平は、1950年代を舞台とした『泥の河』（原作・宮本輝）『伽倻子のために』（原作・李恢成）、『死の棘』（原作・島尾俊雄）の三作品で、戦後社会と人間を見つめ、それぞれモスクワ国際映画祭銀賞、ジョルジュ・サドゥール賞、カンヌ国際映画祭「グランプリ・カンヌ1990」などを受賞している。深く美しい映像表現が特徴である。5年ぶりの「眠る男」では、戦後50年を経て、経済成長と共に日本人が見失ってきた「いのち」の豊かさを、慈しみをこめて描く。

また、この作品が湛える純粋さは、スタッフ、キャストの緻密な協力の成果でもある。脚本は、初のオリジナルで、小栗康平と剣持潔の共同脚本。撮影、照明、録音は、今回初めて小栗組に参加した、監督と同世代の丸池納、山川英明、井上宗一。美術は、日本美術監督協会の理事長を務める横尾嘉良が担当。セットの板戸に、日本画家の平松礼二が、月と白梅を描く。製作の藤倉博と編集の小川信夫は、「泥の河」以来のメンバーである。コンピューター・グラフィックを使った合成は、ハリウッドのアート・デュリンスキー。音楽はヨーロッパを舞台に活躍する現代音楽の細川俊夫による。演奏は、群馬交響楽団。指揮は、高関健。

出演者として、田村高廣、野村昭子、今福将雄らのベテラン陣。「眠る男」が遺作となった浜村純。劇中の能は観世暁夫と銕仙会である。高校生、小学生らがオーディションで選ばれ、またお年寄りや地元の人々が多数、素人の持味を活かして登場する。

山あいの河にそって「一筋町」がある。河原に湧いた温泉の名は「月の湯」。一人の男が眠り続けている。男は外国を彷徨した後にこの町へ戻ってきた。「南米だかどこだか、帰ってきても山」と言われるほどの山好きが、山で落ちて意識を失い、農家の一室で眠り続ける。「眠る男」拓次である。父キヨジ、母フミがいる。

町には、駅の自転車預かり所で食堂を営むオモニ、少年リュウ、高校生の蘭、障害をもっているが豊かな感受性をもつワタルたちが暮らしている。「眠る男」拓次の同級生上村は小さな電気屋を経営している。町外れのバイパス沿いには、「南の女」ティアが働くスナック「メナム」がある。

月が満ちては欠け、雨や風が訪れて緑が濃くなるころ、「眠る男」は息をひきとる。日々のいとなみの中で、なにかが変わっていた。神社の境内で能が演じられた。その日、ティアは深い森にわけ入る……。

（一九九六年作品／ヴィスタサイズ／カラー／一時間四十三分）